



生活支援体制整備事業

お互いさま ひろお通信

「地域づくりから育つひろおの支え合い」

第15号 2020年10月特別号

令和2年度“お互いさま ひろお”の

取り組みをご紹介します

昨年度は暮らしの中にある何気ないつながりや活動に注目しました。これを**地域の宝物**と呼んでいます。地域の宝物の場を訪ね取材をしていると、実は「見守り」や「居場所」等になっていることに気づき、支え合いの基盤になっていることが分かりました。今年度は地域の宝物の視点を大事にしつつも、視野を広げて地域の課題について焦点を当てています。

今年度は「広尾町内での買い物」について考えています。

第1回(7月)

「広尾町内での買い物物について課題に感じている部分を整理してみよう」と題し開催しました。主たる意見として

①今は運転できているから良いけど、免許を返納した後、買い物に行けるかが不安という「免許の返納」について

②子どもが遠くにいるからいざというときに誰を頼ればいいのか、子どもに迷惑をかけたくないという気持ちから「頼れる人がいない」について

③日頃からのつながりが大切になると思うから、どのようにつながりを作っていくかといった面から「通いの場」について

の3つが出ました。他の意見については下記の図にもありますが、「頼れる人がいない」に関連する部分について「見守り」や「一人暮らしの人の姿が見えなくなると不安」という意見が出ました。



第1回(7月) 開催時に出た意見

